

## 名古屋アイスロータリークラブ

RID2760 THE ROTARY CLUB OB NAGOYA IRIS

～ 世界へのプレゼントになろう Be a gift to the world ～  
2015-16 年度国際ロータリー会長 K.R. “ラビ” ラビンドラン

例会日:毎週水曜日 13:00～14:00

例会場:ANA クラウンプラザ グランコートホテル名古屋

創 立:2013 年 6 月 5 日

会 長:安井 忠 「楽しく・深く理解するアイリス」



- 斉唱 それでこそロータリー
- 司会 須賀 祐介会員
- 出席者報告 出席者数 24 名 / 会員数 37 名  
出席率 65%  
前々回(第 99 回)修正出席率は 72.97%(27/37)

- 本日のゲスト・ビジター紹介  
名古屋北 RC 浦野三男 特別代表

### ■ ニコボックス報告

安井 忠 会長

皆様お元気の事と存じます。

荒山 久美 直前会長

先日、お疲れ様会をしていただきましてありがとうございました。

三木 庸之 会員

すこし元気になりました。皆様のおかげです。感謝しております。

藤谷 猛 会員

本日、誕生日を迎えました。

これからは感謝の心で毎日を通らせて頂きます。

加藤 晴美 会員

健康で誕生日を迎えられたことに感謝です。

### ■ 会長挨拶

皆 8 月に入りまして、毎日暑い日が続いております。

すので熱中症にならない様皆様御自愛下さい。

戦後 70 年になりました本日から私、安井の略歴を申し上げなければなりません。

私は、昭和 13 年 2 月 8 日旧満州・現 中国瀋陽日本国赤十字病院で父・安井金治、母・はつ子の間に産まれました。

父と母はいとこ同士の結婚であり満州国へ駆け落ちをした様であります。

そして満州飛行機で働き中国人労働者への指揮監督をしていたそうで有ります。

1945 年(昭和 20 年)8 月。ロシア軍が対日参戦して満州に侵攻すると、約六万人の満州在住日本人が朝鮮に逃れロシア軍に封鎖された北緯 38 度線に阻まれ北朝鮮にとどまらざるを得なくなった満州からの人々の大半は、一家の稼ぎ手を満州に残した女性と子供で貧困はやがて栄養失調と疾病を招き北朝鮮北部に住んでいた人々と並んで 満州からの避難民は北朝鮮における最大の犠牲者となりました。

終戦の日か次の日が分かりませんが飛行場にロシア軍が色々な色の落下傘で下りてくるのをまるで花火を見ている様な気持ちで眺めておりました。

昭和 20 年 8 月に入りますと飛行場の格納庫に爆弾が雨あられの様に降り、私達の住んでいる社宅ではどここの棟の誰々さんが亡くなったと言う情報が毎日の様に入りやがて社宅に亡くなった人々が戸板に乗せられて運ばれて来るのを見て私

の父はどうなるのだろうと子供心に思ったものです。

空襲が始まると母と妹との3人で前もって分かっている時は社宅の防空壕へ急に空襲になった時は家の押入れの中で布団をかぶって隠れていた事を思い出します。

8月15日になりました。私は夏休みなのに何故か学校へ行かされそこで先生から直ぐに家に帰る様に言われ社宅に戻りましたら母が涙を流しているので「どうしたの?」と聞きますと日本が戦争に負けたと言う事でした。

何も分からないうちに日本へ引き上げる事となりました。

住んでいた所が満州飛行機の社宅でありロシア軍の侵入と同時に父は何処かへ行ってしまい母は頭を丸坊主にして顔に墨を塗り男性に見える様にカモフラージュをしておりました。

そして社宅にロスケが来ると言う情報が入りますと産まれたばかりの弟を連れ1年生の私と4歳になる妹を残し逃げ惑っていました。

同時のロスケはマンドリンと言う機関銃を持ち土足で各家庭に入り込み、金目の物や時計等、全て持ち去って行きました。

私と妹は部屋の隅でじっとしていると何か私達に話しをし家中を引っかき回して出て行きました。その時の私が見たロスケは両腕に時計を十個位ずつはめていました。

しかし私達、子供は危害を加えられず母の帰りをじっと待っていました。

夜になると母が弟を負ぶってどこからとも無く帰って来て電気を点ける事無く真っ暗な部屋で声も立てずに食事をした事を思い出します。

そんな不安な毎日を1ヶ月もしたでしょうか

何処からとも無く父が帰ってきました。

私の家族は幸いにも父と一緒に避難する事が出来たので一応、食べる事には他の家族より少しは恵まれていました。

そして1家5人で朝鮮のプサン(今の韓国プサン)

への旅が始まるのです。

そして平壤へと北朝鮮で最大の満州避難民を受け入れる都市となった平壤は日本人約2万2千人が当初は学校等の公共施設に収容されたそうです。

しかしロシア軍が進駐すると退去を命じられ避難民は民家や旧遊郭などに移住されたそうです。

私達一家は満州から平壤に避難する時期が一番遅くいきなり小さな部屋が沢山ある家に住んだ記憶があります。

おそらく遊郭の一部屋だと思います。

何処をどう歩き、何処かの貨物列車の荷台に乗り野宿をしたりそして人の良い満人・朝鮮人の家族が居る家に1週間程泊めて頂き父や母はその家の手伝いをしながら旅を続けました。

当時、父や母はどの位のお金や宝石を持っていたのか私には分かりませんがそれらを与えてはプサンへの旅を続けたと思います。

途中途中でロスケに殺された日本人や生活に疲れ果てた日本人や子供達の死を嫌と言う程見ながらの旅でした。

当時の旅の格好は父は大きなリュックを前後に背負い、母は少し小さめのリュックを前に背中には1歳の弟を背負い、私はランドセルより少し大きめの布カバンを背負い4歳の妹の手を引き父と母に死んでも手を離すと言われて歩き続けました。

その妹は何故かアルミの洗面器とオマルを背負っていました。そして今でも何処か分かりませんがプサンへの道の途中1年位生活をした事を覚えております。父は何処かへ働きに行き母は私達の面倒を見ながら同じ様な暮らしをしている日本人同士かの会合や今後の事を話し合っていたのだと思います。

そしてようやくプサンの埠頭にたどり着く事が出来ました。

その埠頭には大きな貨物船が岸壁につけられ引き揚げる日本人が何千人と列を作り乗船を待っていました。

それが引き揚げ船、幸運丸でした。

5日位並んでいるとようやく私達家族も乗船する事が出来ましたが何せ貨物船ですので畳や毛布がある訳では無く板の間の上に一家と他の家族とが雑魚寝をする状況でした。

乗船してから3日目によりやく日本の舞鶴の岸壁に付く事が出来ました。

船中の食事はカンパンと鮭の入った味噌汁でした。ようやく下船する事が出来ましたが岸壁に下りたとたん全員が素っ裸になり頭からお尻まで有機塩素系の殺虫剤・農薬のDDTをかけられた嫌な思いがあります。ここまでが私が生まれ1年生で終戦になり昭和22年8月に舞鶴港に引き揚げて来た実話であります。

この続きは又、来週お話しをさせていただきます。暑い中、しめっぽい話して申し訳ありません。ありがとうございました。



## ■研修セミナー報告

◇職業奉仕、社会奉仕プロジェクト副委員長  
長谷川 芳子会員

8月6日に名鉄グランドホテルにて行われました、地区内クラブ研修・情報委員会 研修リーダー会議に出席して参りました。

「ロータリーの歴史」について1時間程度の講義をうかがった後にRLI討議方式とって講演の様に語り手が一方的に情報を伝えるだけではなく参加者全員が意見を述べ検議することにより理解を深める

という方式にてセミナーを受けました。10人位のチームに分かれロータリーの各クラブの研修の実情について話合われました。ディスカッションリーダーが進行役をつとめながら各クラブからは「新入会員が毎年30人～40人位いるので研修が追い付かず大変です」とか「その年の会長または研修リーダーによって研修のやり方が違うので困っています」など意見が出されました。

アイリスロータリーは3年目ということもあり、各クラブの研修のやり方や現状を参考にしながら新入会員や現会員の研修を行い、ロータリーの理解を深めロータリーに対するモチベーションを高めていくようご指導いただきました。



◇ロータリー財団委員会 職業研修チーム委員  
荒山 久美直前会長

7/25(土) 16:00～17:30 よりガバナー事務所にて第1回VTT(職業研修チーム)委員会がございました。VTTって何だ?と思われる会員さんのために簡単に説明します。地域社会の人々の能力やスキルを高めるために日本から専門家チームを海外に派遣して実務的な研修をしたり、逆に海外からの専門家チームをこちらに受け入れて研修をさせたりします。地区のメンバーは私を含めて6名ですが、その橋渡しやお世話をする活動をします。今年度は第3410地区(インドネシアの西半分にあたる)に対しての支援に決定しております。今年1月のサンディエゴ国際協議会にて、加藤ガバナーと3410地区のガバナーさんとの間でプロジェクトの実施について確認、グローバル補助金を利用し、当該地区の一医療

施設に「院内感染症の予防管理」をテーマにして、2760 地区からは来年 3 月頃に医療チームの派遣、3410 地区からは 4 月頃受け入れの予定です。予算は US \$ 50,000~60,000 を予定しております。ロータリー財団の 6 大重点分野は①平和と紛争解決②水と衛生設備③母子の健康④基本的教育と識字率向上⑤経済と地域社会の発展⑥疾病予防と治療がありますが、「疾病予防と治療」をテーマに 2760 地区はここ 3 年活動しております。8 月 7 日に開催されたロータリー財団セミナーの分科会の中でも取り上げられ、実施予定の活動の説明がございました。会員皆様からの年次寄付 \$ 150 の積み重ねからこれらのグローバルな活動の一部になっております。第 2 回委員会は 9 月 19 日です。また後日進展については報告申し上げます。



#### ■新年度 理事・役員方針発表

##### ◇クラブ奉仕・会員教育委員長

三木 庸之理事

会員増強にあたり、37名の会員に1人ずつ紹介していただきたい、単純に倍増する計画です。

また推移をみると出席率が下がっている、メーキャップを積極的に行ってほしい。

安井会長は77歳で会長をされ、先の挨拶でも今まで、とても苦勞をされている、このアイリスでの安井丸が順調に航海することは間違いがないが安井会長のネオン街好きが危惧され、ご注意ください。



##### ◇ロータリー財団・米山記念奨学委員長

藤谷 猛委員長

ロータリー財団・米山奨学金 委員長の藤谷です。

まず、ロータリー財団についての委員長方針を発表させていただきます。

ロータリー財団の使命は、ロータリアンが人々の健康の改善、教育の支援、貧困の救済を通して世界理解、親善、平和を達成することにあります。

皆様ご存知の水と衛生、識字率向上、ポリオの撲滅など財団の補助金を使った活動が多数行われています。

そこで今年度のロータリー財団についての委員長方針を次のように決めました。

- ① 11月に皆様にロータリー財団をもっと理解して頂けます様に卓話を行います。
- ② 情報収集・理解を深めるために、地区から開催案内のあるロータリー財団委員長会議に出席します。
- ③ 財団の補助金は、地区補助金、グローバル補助金、パッケージ・グラントの3種類に分かれています。これらを熟知するための勉強・研究を行います。

次に米山奨学金についての委員長方針を発表させていただきます。



ロータリー米山奨学金事業は、全国のロータリアンからの寄付金を財源として日本で学ぶ「私費外国人留学生」に奨学金を支給し支援する事業です。

将来、日本と世界を結べる人材の育成に寄与できるよう、今年度の米山奨学金委員長方針を次のように決めました。

- ① 10月に米山奨学金の歴史、意義、制度、成果などを理解して頂けるよう卓話を行います。
- ② すでに当クラブは、ベトナム人留学生の「グエン・フォン・ティミンさん」の世話クラブとなっておりますが、今後も、その支援を行っていきます。
- ③ 奨学生の現状を知るために名古屋北RCのファミリークラブから奨学生を招いての卓話を計画します。
- ④ 個人の寄付金を募り米山功労者を多数輩出します。なお米山功労者は個人の特別寄付金の累計額が10万円に達したとき表彰されます。
- ⑤ 情報収集・理解を深めるために地区から開催案内のある米山奨学委員長会議に出席します。

以上、委員長方針の発表とさせていただきます。

ありがとうございました。

◇会員増強委員長

片桐 栄子理事

会員増強するにあたりやはりロータリーの歴史を知ることが大事だと考えています。

また三木理事のお話あった通り1会員1名の紹介を頂きたいと思います。

